

質問フォームへの回答

2021/10/22 JPCOAR 人材育成作業部会

質問②④メタデータのみの公開について

非公開とされているデータのメタデータが公開可である場合、機関リポジトリに登録すべきか？登録する場合は、どのような場合が想定されるか？

回答②④メタデータのみでの公開について

機関の方針によります。

（１）大学の各研究者の研究成果物を貯蔵する倉庫という目的で設置されたものであればメタデータのみを登録するのは意味がありません。

（２）大学の各研究者の研究業績を通覧するためのポータルサイトという目的で（あるいはそういう機能をも果たすべく）設置されたものであればメタデータのみでも登録するべきです。

『研究者総覧』や『教育研究活動データベース』などの名前で研究業績を一覧できるサイトを有している大学の場合は、上記（２）でいうところのポータルサイトの役割は機関リポジトリではなくそちらのサイトが果たす場合が多いです。

B(P6)

「デジタルアーカイブ」（将来的にデータのオープン化など想定しています）と「機関リポジトリ」を明確に分けるとは、「機関リポジトリ」的なたとえばJAIRO Cloudを別に2つ持つ方がよいということでしょうか？

回答④資料B デジタルアーカイブの理解

JAIRO Cloudなどを複数持つ必要はありません。

ご質問で想定されているのが自機関で作成された研究データのことでしたら、論文等と同じく所属研究者の成果物ですので、自機関の研究成果物を公開する機関リポジトリで扱います。

資料B p.6での『デジタルアーカイブ』は、貴重資料コレクションなどをご想像ください。

機関リポジトリは「自機関での研究成果物」を公開する場所であるので、自機関で作成したわけではない貴重資料などを掲載する場合は、自機関の研究成果物ではないことを明確にわかるようにしておく必要がある、という説明です。

この場合も、JAIRO Cloudなどを複数持つ必要はなく、一つのシステムに共存して構いません。『機関リポジトリ』としての登録コンテンツと『デジタルアーカイブ』とでは、内容の性質も利用者層も異なると思われるので、JAIRO Cloudであればインデックスツリーで大分割するなど明確にわかるようにしておきましょう。

また、『機関リポジトリ』と『デジタルアーカイブ』を別に見せたいのであれば、JAIRO Cloudを複数持つことも選択肢のひとつです。

質問⑫今からJCを新規利用する

私たちの機関はWEKO3移行の方針が周知され始めた頃にJAIRO Cloudの利用を開始しました。移行が完了してから論文の登録を始めることを考えていましたが、移行が延長されているため、現行のWEKO2での登録も視野に入れています。他の機関はどのようにされているのか、ご教授頂けると幸いです。

回答⑫今からJCを新規利用する

考え方として、例えば、

- ・いつ移行完了するか分からないので、現行WEKO2で登録を開始する。

研究成果をできるだけ早く公開したい場合はメリットになる。

一方、移行後、データが問題なく移行できているかの確認作業が必要となったり、WEKO3の操作手順やJPCOARスキーマのルールに改めて慣れる必要があるといったデメリットがある。

- ・WEKO3運用開始を待って、登録を開始する。

移行データの確認は不要で、WEKO3とJPCOARスキーマへの習熟だけ考えればよいので手間は少なくて済む。

デメリットとして、WEKO3運用開始までは、研究成果の公開ができないことがある。

質問⑬他機関から移籍してきた教員の論文について

他機関から移籍された教員の論文について、すでに移籍前の機関リポジトリで公開されている場合、本学の機関リポジトリでは本文公開できないのでしょうか？

回答⑬他機関から移籍してきた教員の論文について

すでに移籍前の機関リポジトリで公開されているから、移籍後の機関リポジトリでは本文公開できないというような決まりはありません。

同じ論文が複数のリポジトリで公開されていると、より発見可能性が高まると考えることもできます。

質問⑱社会人博士が勤務先の研究機関に博士論文を登録できるか

資料「IRDBデータ提供機関のためのDOI管理・メタデータ入力ガイドライン：JPCOARスキーマ編」 p.15

博士論文は国立国会図書館と学位授与機関（大学）の機関リポジトリの間でマルチプルレゾリューションを設定するとのことですが、社会人になってから学位取得した場合、勤務先の研究機関で博士論文を自機関リポジトリに登録することはないのでしょうか？

回答⑱社会人博士が勤務先の研究機関に博士論文を登録できるか

社会人博士に限らず大学教員でも同様のご希望があり得ると思われます。
学位授与機関のリポジトリには義務として、現所属機関のリポジトリには自発的に登録することが可能です。

その際、

- ・ 本学の授与学位の根拠論文
 - ・ 本学研究者の研究成果（たまたま発表先が他大学の学位審査委員会）
- のどちらであるかで扱いが全く異なり、NDLの収集にも関わりますので、カテゴリ分けやメタデータ表記は十分に検討してください。

研究資料C(17p)

学会・出版社のポリシーは確認し、掲載した後にも変更が考えられるのですが、月に1度は再確認している等、定期的にされているのでしょうか。その確認によって公開していたリポジトリから取り下げた事がある等の、事例もご存じであればお聞かせ願いたいです。

リポジトリで公開した論文等について、公開後に学会・出版社のポリシーを定期的に再確認しているといった事例はこれまで聞いておりません。

したがって、ポリシー変化によって取り下げることになった事例も一般的に聞いたことがありません。

質問⑮資料C 著作権とCCライセンスの違い

「オープンアクセスと著作権」 p.22のライセンシングについて、「著作権とは別な枠組みであるライセンシング」と記載がありますが、別な枠組みとはどういう意味なのでしょう？別な枠組みということは、CCライセンスで許可されている行為でも著作権上ではアウト（またはその逆）ということがあるかもしれないということでしょうか？CCJAPANのサイト（<https://creativecommons.jp/licenses/>）では「CCライセンスとはインターネット時代のための新しい著作権ルール」と記載があり混乱してしまいました。著作権とライセンシングの関係性についてもう少しお話をお聞きしたいです。

回答⑮資料C 著作権とCCライセンスの違い

別な枠組みというのは、 著作権＝法律

ライセンシング＝契約

ということです。そして、契約が法律に優先します。

ふたつ目の質問（CCライセンスで許可されている行為でも著作権上ではアウト（またはその逆）ということがあるかもしれないということでしょうか？）については、そういうことはありません。ただし、理由は異なります。

（１）CCライセンスで許可されている行為でも著作権上ではアウト

→ そういうことはありません。なぜなら契約は法律に優先するから。

（２）その逆（著作権で許可されている行為でもCCライセンス上ではアウト）

→ そういうことはありません。なぜなら、（著作権による保護以上の強い制限を加えるライセンスというのも理論的にはあり得るでしょうが）ここで取り上げているCCライセンスは著作権法の保護を緩和する方向の自由度の高い内容であるから（結果的に大丈夫）です。

質問⑭CCライセンスのあるOA論文の登録

本学所属教員が執筆したCCライセンスのあるOA論文（例えばCC BYやCC BY-NC、CC BY-NC-NDなど）をリポジトリに登録したい場合、著者の許諾は必要なのでしょうか？それとも、再配布可のCCライセンスがついていれば許諾は取らずにリポジトリ登録してもいいのでしょうか。また、再配布可のCCライセンスのあるOA論文でも共著者から許諾を取らなければなりませんか？

回答⑭CCライセンスのあるOA論文の登録

機関リポジトリでの論文公開は原則として、著者の意思に基づいて行うものですので、著者の意思がないものを登録することは適切ではありません。

ただし、著者の意思を包括的に確認している機関（≡オープンアクセス方針などで）では、著者の意思表示を待たず、CCライセンスの論文を複製・登録する例もあります。

なお、ご参考までにですが、適切かどうかを別とすれば、勝手に登録しても（法的な）問題は生じません。（CCライセンスであるWikipediaのコンテンツを勝手に印刷販売してもOKなのと一緒にです）

C(p23～)

CCライセンスの付与が可能な著作物の場合どのバージョンを利用すればいいのでしょうか？またその理由があれば教えてください。

回答⑥資料C CCライセンスを付与するバージョン

CCライセンスを使って再利用の条件を表示するかどうかも含めて、論文の登録を希望される研究者の意向にしたがいます。

なお、機関リポジトリ運営主体（としてのたとえば学内の担当委員会組織など）がリポジトリの運用規定などに定めているケースがあります。

例：https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/siryo/HUSCAP_teikyo_2021.pdf

なお、BOAI(<https://www.budapestopenaccessinitiative.org/>)では下記の通りCC-BYを推奨しています。

On licensing and reuse

2.1. We recommend CC-BY or an equivalent license as the optimal license for the publication, distribution, use, and reuse of scholarly work.

資料B『機関リポジトリの管理』の31枚目

3. 実務 ④本文データの内容について、質問があります。

PDFの本文データをリポジトリに登録する際は、セキュリティを設定したほうが良いでしょうか？

回答⑧資料B PDFへのセキュリティ設定

公開の主体は著作者ですので、その論文の著作者の方の意向に従ってください。

他機関の事例を見ますと、いくつかのパターンから選択制としていたり、リポジトリ運営の委員会等でデフォルトを定めている例もあります。特段の希望がない、登録時の手間を少なくしたい、という希望が多ければ、デフォルトを定めるのも効果的です。

オープンアクセスの基本理念をふまえると、できるだけセキュリティは設定しない方が好ましいと思われます。

また、JAIRO Cloudの場合、PDFにセキュリティ設定を行っているとカバーページが作成できません（「JAIRO Cloud初級ユーザー向け手引書 2. コンテンツの個別登録」p.21）。

検討の際はこのような点もご注意ください。

資料「機関リポジトリの管理」 p.36

IRDBのハーベストでエラーとなったデータの対応方法を詳しく知りたい。修正する期間が決められているのかなど。IRDBのサポートページによるとエラーデータのエラーになった項目を確認するとありますが、機関リポジトリで修正をすれば次のハーベスト日にハーベストされてエラーは解消されるのか？また次回ハーベストに間に合わなかったときは修正に期限はあるのか？

回答⑩資料B IRDBのハーベストでエラーとなったデータの対応方法

IRDBでのハーベストエラーにつきまして、修正の期限はありません。

ですが、レコードエラーなど、エラーの種類によっては早めに修正すべきものがあります。こちらをご参考ください。<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/faq/cat-a/52>

機関リポジトリで正しく修正すれば、次回のハーベストの際にハーベストされ、登録件数か更新件数に数えられます。この修正もうまくいっていなかった場合は、再度ハーベストエラーとなります。

修正を行わないまま次回のハーベストが行われると、ハーベストの対象は新規登録や更新のあったデータのみなので、エラーとなっていたデータはハーベスト対象とはなりません。

そのため、データはエラーの状態でそのまま残りますが、毎週のハーベストエラーには計上されなくなります。エラーデータの存在を忘れてしまわないようにご注意ください。

質問⑱複数の機関リポジトリに登録された論文のCiNii等での見え方

共著者が複数いて、それぞれが異なる機関に所属している場合について一つの論文について、共著者それぞれの所属機関の機関リポジトリにコンテンツ登録した場合、それぞれの機関リポジトリからIRDBにハーベストされると思います。そうした場合、IRDBやCiNii Researchの検索結果には一つの論文に対して複数の検索結果（複数の機関リポジトリ）が表示されるのでしょうか？それとも、どれか一つの機関リポジトリのみが代表として表示されるのでしょうか？もし、一つの機関リポジトリのみが表示されるのなら、その表示される機関リポジトリが選ばれる基準も知りたい。

回答⑱複数の機関リポジトリに登録された論文のCiNiiでの見え方

IRDBでタイトル検索などを行うと、該当論文が登録されている機関リポジトリがすべてヒットします。

CiNii Articlesでは機関リポジトリへのリンクは1つだけ表示されており、最初に連携されたデータと思われます。

例) <https://ci.nii.ac.jp/naid/120000839783> ①にリンクする

① <http://hdl.handle.net/2241/9511> こちらのほうが登録日が早い

② <http://hdl.handle.net/10091/3196>

CiNii Researchですと、複数のリポジトリへのリンクが表示されました。

B40 >まずは、最もメジャーである『Open Archives Initiative』に登録しておきましょう。

とありますが、こちらへの登録は有料ですか？また、登録することでどのようなメリットが得られますか？

無料です。

登録することで、あなたの組織のリポジトリの存在を世界中の情報サービス機関に知らせることができます。そして、それら情報サービス機関があなたの組織のリポジトリのメタデータをハーベストしに来てくれて、彼らのシステムの検索対象にしてくれます。

G22 > 機関によってはOAlster から直接収集されることもありますし、 IRDB を経由してメタデータが提供される場合もあります。

とありますが、この2つの方法の違いやそれぞれのメリット・デメリットは何ですか？また、OAlster から直接収集される方を希望する場合、こちらは有料なのでしょうか。

回答⑩資料G OAIsterから直接収集とIRDBを経由の違い

IRDBからのハーベストを受けている機関のリポジトリのメタデータは、IRDBからOAIster等にも自動的にメタデータが流れていきます。また、自機関リポジトリの情報を、OAIデータプロバイダリストに登録するなどして世界に示しておく、それを見たサービス機関（OAIster等）が自機関リポジトリに直接メタデータをハーベストしに来てくれます。

したがって、2つの方法のどちらかを選択するというようなものではありません。その意味で、メリット・デメリットもあまり考える必要はありません（し、特段のメリット・デメリットもないように思われます）。OAIsterに限らず、世界のサービス機関にメタデータを供給するには、上に記したとおり、OAIデータプロバイダリストに自機関リポジトリの情報を登録（無料）してください。

質問⑪資料G IRDB経由とGoogleの直接収集の違い

G25 > Googleによる機関リポジトリからのメタデータの収集には、IRDB、CiNii Articles を経由して行われる経路と、Google が機関リポジトリから直接収集（クロール、クローリング）する経路があります。とありますが、こちらについても2つの経路の違いやそれぞれのメリット・デメリットを教えてください。また、Googleが直接収集する方を希望する場合、こちらは有料なのでしょうか。

回答⑪資料G IRDB経由とGoogleの直接収集の違い

IRDB・CiNii Articles経由で収集

メリット：機関リポジトリとIRDBとの連携の設定さえすれば、特段の作業が必要ない。

デメリット：コンテンツの本体（PDF）の内容は収集対象とならない（≡検索で見つかる可能性が減少するかも）。

Googleにより直接収集

メリット：本文PDFの内容まで収集される（≡検索で見つかる可能性が上がるかも）。

検索結果として機関リポジトリの画面が表示される（≡貴機関の可視性や知名度が上がるかも）。

デメリット：機関リポジトリを各種Webサイトからリンクされるようにしておく手間がかかる。

場合によっては収集されるように手続きをする必要がある。

なお、Googleからの収集に料金はかかりません。

G(P23)

oai_dcの15基本要素のうち内容記述とは抄録のことでしょうか？その場合著作権の問題を考えないといけないということですか？著者最終稿の登録が可能な場合の著者最終稿の抄録は著作権の問題をクリアしていると考えてよいのでしょうか？

回答⑦資料G oai_dcの15基本要素について

①oai_dcの15基本要素のうち内容記述とは抄録のことでしょうか？

はい。（なお、イコールではありません。内容記述の原語はdescriptionであり、抄録以外にも、その事物についてのあらゆる説明がdescriptionになりえます。「カレーが好き」は黄レンジャーのdescriptionです。）

②その場合著作権の問題を考えないといけないということですか？

はい。

③著者最終稿の登録が可能な場合の著者最終稿の抄録は著作権の問題をクリアしていると考えてよいのでしょうか？

はい。

※なお、メタデータハーベスティング後の、サービスプロバイダによる抄録二次利用についてはCoCOAR 13号を参照ください。

質問①資料AおよびE 著者最終稿へのdoi付与

研修資料A(13p)およびE

学術雑誌論文について、プレプリントサーバー、学術雑誌、機関リポジトリと、段階は違うけれど内容は同じ論文に3つのdoiを付与する事も可能だと思います。学術雑誌でdoiが付与された場合には、プレプリントサーバーでのdoi情報を更新しているのが現状だと思いますが、A(13p)にも書かれているように、学術雑誌では有料で本文が読めない場合もあると思いますので、著者最終稿（＝無料で読める）へのdoi付与は推奨されるでしょうか。

回答①資料AおよびE 著者最終稿へのdoi付与

研修資料 A および E の担当講師は、著者最終稿（＝無料で読める）への doi付与について推奨します。

質問者の仰る通りで、ある版（機関リポジトリにセルフアーカイブされた版）は、別のある版（ここでは出版版。VoD）とは区別した形で固定・識別されるほうがよいからです。

なお一方、出版者の方からは、DOIとは雑誌論文に振るものであってリポジトリコンテンツに振るものではない等といった考え方を聞いたこともあります。

研修資料E

機関に所属している研究者が筆頭著者（コレスポンディングオーサー）ではない論文の場合、筆頭著者が所属している機関のリポジトリでもdoiが付与される可能性があるので、doiの付与はせず、メタデータのみの登録にした方がよいでしょうか。

回答③資料E 筆頭著者でない場合のdoi付与

リポジトリに登録するにあたってその点を考慮材料とする必要はありません。論文提供者が、その論文の筆頭著者であってもなくても、同じように処理すればよいです。

同じ論文（の著者版）を複数のリポジトリに登録して、それぞれにDOIを付与するという
ことについて、特に規則はありません。

「DOI管理・メタデータ入力ガイドライン」 <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/160>

では、出版者版と著者版は分けて扱い、著者版であることを明確にするとともに、出版者版の DOI が登録済の場合はそれを明示することになっています。

同じ著者版が複数のリポジトリで公開されていると、より発見可能性が高まると考えることもできます。

その場合は、メタデータの情報がしっかりしていて、どういう版なのかが判別可能となっていることが重要です。

質問⑰他機関リポジトリで登録されている論文のDOI

資料「IRDBデータ提供機関のためのDOI管理・メタデータ入力ガイドライン：JPCOARスキーマ編」 p.9

「出版者版を登録する場合」ですが、A機関発行の研究報告の掲載論文をA機関が登録する場合は資料の通りでわかるのですが、A機関発行の研究報告にB機関の研究者が論文を投稿（共著等）している場合にB機関の機関リポジトリに出版者版PDFを登録すると、出版者版のDOIが2つということになってしまうように思います。B機関はメタデータ要素"jpcoar:relation"（関連情報）の入力を必須にしなくても大丈夫なのでしょうか？

回答⑰他機関リポジトリで登録されている論文のDOI

JPCOARスキーマガイドライン>JPCOARスキーマ項目の説明>識別子

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema/17> によると、

リポジトリコンテンツの自身のIDを記入する。学術雑誌論文の出版社版等のDOIはjpcoar:relation（関連情報）に記入する。

とありますので、質問者のご理解の通り、jpcoar:relation（関連情報）の入力が必要です。

また、「メタデータ要素“oaire:version”に“VoR”と記入し、出版者版のコンテンツであることを明確にする」ことも必要です。

（「IRDBデータ提供機関のための・・・」p.9）

C(p5)

研究データの著作権の考え方について、研究データを「著作物」に準じて取り扱うとあります。論文に付随する図表の著作権者は論文の著作権者と同じと考えられますか？また、図表の根拠数値データの著作権者は論文の著作権者ではなく著者と考えるのですか？出版社等なら論文と同様に許諾が必要であり、研究者ならCCライセンス付与が可能と考えるのでしょうか？

回答⑤資料C 研究データの著作権

「論文に付随する図表の著作権者は論文の著作権者と同じと考えられますか？」と書かれている「論文に付随する図表」が「論文中の図表」であれば、その論文まるごと扱えばよいとされています。

p.5に記載の「研究データ」とはそれ単独で1コンテンツである「研究データファイル」のことです。

研究データは、一般的に「著作物」とは見なされません。

しかし、現実の機関リポジトリ業務においては、（テキスト中にある『研究データを「著作物」に準じて取り扱う』のとおり）やはりその持ち主である所属研究者の意思の下に登録・公開を行うのが適切でしょう。

なお、研究データに関しては、「可能な限りオープンに、必要な限りクローズに（as open as possible and as closed as necessary）」という言葉があります。

さきに述べた通り、研究データは著作権の保護対象ではなく、公開すれば自由に利用されることになりますので、機関リポジトリで公開するかどうかは、研究者自身が十分戦略的に考えて決定する必要があります。

第6期科学技術・イノベーション基本計画等をも踏まえ、学内全体としても議論を深めていきましょう。

研究データ管理に関してさらに学びたい時はこちらの教材を活用してください。

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607#.YWUZA-dUtPY>

質問②①研究論文とエビデンスデータを同じアイテムの中に登録するのか

研究論文とエビデンスデータを同じアイテムの中に登録するのと、別々のアイテムに登録して関連づけをするのでは、どちらがよいのだろうか？

回答②①研究論文とエビデンスデータを同じアイテムの中に登録するのか

研究論文とエビデンスデータを同じアイテムに登録する場合、データの資源タイプで検索することが出来なくなります。

例えば論文内で使用されている図表の高画質データなどであれば同じアイテムでも十分に思われますが、独立して利用される可能性がある元データなどであれば、別に分けたほうが利便性は高そうです。

もっとも、データセット用のメタデータを別途作成する必要がありますので、一手間増えてきます。

質問②③研究データの扱いについて(プレプリント、著者最終稿、出版者版)

研究データの扱いについて、プレプリント、著者最終稿、出版者版とそれぞれとあわせて登録、利用されるものか。

回答②③研究データの扱いについて(プレプリント、著者最終稿、出版者版)

研究データは登録コンテンツの根拠になるデータだけではなく、単独で登録されるケースも想定できます。

それぞれと合わせて利用されるかどうかは、登録希望者に確認する必要があります。

関連して、データが登録コンテンツと合わせて登録、利用される場合であっても、各バージョンで同じ研究データを使用しているかどうかは、登録希望者に確認する必要があります。

査読を経てデータが修正されるケースが考えられます。

質問②⑩研究データのDOIについて

研究データのDOIには、JaLK DOIまたはDataCite DOIのどちらを付与してもよいのですが、それぞれのメリット、デメリットはあるのでしょうか？また、機関として統一する必要があるのか？研究者の希望や研究内容によって選択できるのか？

回答その1

<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/news/20210601>

によると、現時点ではJCではDataCite DOIはまだ振れないようです。

「DataCite DOIは研究データに特化した」DOIで、メタデータが違うのだと思います。

<https://journalcafe.atlas.jp/2020-03-10-1541> が一般的な説明になるかと思いますのでご参考ください。

細かくはJaLCを通して JaLC、Crossref、DataCiteのDOIの三種類を振ることが可能、そのうちCrossrefだけが有料のようです。

回答その2

研究データであえてJaLC DOIを選ぶメリットは、ないと考えています。外部、特に外国のデータベースにDOIのメタデータを収集してもらうことを考えるとき、CrossrefやDataCiteをサポートしているところは多数あっても、JaLCのメタデータをサポートしているところが多数あるとは考えにくいからです。

回答②研究データのDOIについて

回答その3

JaLC DOIを選択した場合、日本語のメタデータで登録できるメリットがあります。他のRAですと多言語対応が微妙だったりするので、例えば紀要論文で英語のメタデータが不足している場合には需要があるかもしれません。

一方で、メタデータの流通性や、研究データのバージョン管理サービスなど他のRA経由で登録したほうが良い理由は沢山あります。

JCの選択肢としてはJaLCかCrossrefになりますので、有料でもサービスの良いCrossrefを選ぶかとりあえずDOIをつけるJaLCを選ぶか、と考えられます。

機関として複数RAからDOIを取得している例はありますが、prefixが変わります。機関としてそれで良いかどうか、各自が判断することになるかと思います。

質問②②プレプリントの扱いについて

プレプリントの扱いについて、リポジトリ登録のタイミングや利用のされ方、以後に発行される著者最終稿と出版者版との関連はどのようなになっているのか。

回答②②プレプリントの扱いについて

プレプリント（学術誌への投稿前の論文）を機関リポジトリに登録している例を国内ではあまり聞きません。スクーリング参加者の機関リポジトリでプレプリントに登録している事例がありましたらぜひご紹介ください！

事例に基づくものではありませんが、プレプリント登録にはさまざまな異なるモチベーションがあるように思いますので、場合分けして若干の分析をしてみます。

（１）arXiv.org等のプレプリントサーバに投稿した論文を機関リポジトリにもセルフアーカイブしたいと著者が考えた

- ・リポジトリ登録のタイミング：プレプリントサーバ投稿後となるでしょう。なお、そのプレプリントの投稿予定誌が、たとえば「機関リポジトリでの公開禁止」といったポリシーを持っている場合、あとで取り下げなければならなくなったりする可能性があるので、あらかじめ確認しておくほうがよいでしょう。
- ・利用のされ方：ほとんど利用されることはないでしょう（プレプリントサーバのほうが利用されます）
- ・以後に発行される著者最終稿と出版者版との関連：relationメタデータ等で互いにリンクするなどして参照しやすくしておくのが親切かと思われます

回答②②プレプリントの扱いについて

（２）雑誌掲載済論文を機関リポジトリにもセルフアーカイブしたいと著者は考えたが、出版社のポリシーによって、プレプリント（査読前の原稿）の登録しか許容されていなかった

- ・リポジトリ登録のタイミング：通常の学術雑誌掲載論文のセルフアーカイブと同様に考えればよいと思います
- ・利用のされ方：通常の学術雑誌掲載論文のセルフアーカイブと同様に考えればよいと思います
- ・以後に発行される著者最終稿と出版者版との関連：査読過程での修正を反映するために、正誤表を付すことが推奨されています。So in those cases where the the copyright transfer agreement does not yet give the author the green light to self-archive the refereed final draft ("postprint"), there is always the alternative of self-archiving a corrigenda file alongside the already archived preprint, listing the changes that need to be made to make the pre-refereeing preprint conform to the refereed postprint. (Self-Archiving FAQ
<https://eprints.soton.ac.uk/260635/1/index.html>)

回答②②プレプリントの扱いについて

（３）機関リポジトリが、プレプリントサーバの役割（＝研究の先取権の確保）を果たすようにしたいと運営者として考えている

- ・リポジトリ登録のタイミング：任意でよいと思います
- ・利用のされ方：なんとも言えませんが、プレプリントサーバと異なり、機関リポジトリには集客力がないのであまり期待はできません
- ・以後に発行される著者最終稿と出版者版との関連：relationメタデータ等で互いにリンクするなどして参照しやすくしておくのが親切かと思われます
- ・その他：なお、機関リポジトリにプレプリントサーバの機能を担わせることは、現在のところさほど人口に膾炙した考え方とはいえません。タイムスタンプなど、十分なシステムの要件の検討・整備をおすすめします。

これで本講は終わります。